

生涯学習関連施設のネットワーク化に関する研究

- 生涯学習の推進のための施設間連携のあり方について -

調査協力市町村
県内59市町村

研究の概要

多様化、高度化する学習ニーズや現代社会が直面している様々な課題に対応した学習機会の拡充を図るための効果的な施設間連携のあり方を明らかにするものである。

本研究を通して、次のことが整理された。

ネットワーク化の必要性について整理した。

県内市町村の生涯学習関連施設間連携の現状と課題について整理した。

先進事例研究の施設間連携の取り組みについて整理した。

効果的な施設間連携の視点を整理した。

キーワード：ネットワーク化 生涯学習関連施設 現代的課題

目 次

1	はじめに	-----
2	施設のネットワーク化	-----
	(1) ネットワークの定義	-----
	(2) ネットワーク化の必要性	-----
3	生涯学習関連施設とは	-----
	(1) 生涯学習関連施設とは	-----
	(2) 主な生涯学習関連施設	-----
4	県内市町村における生涯学習関連施設間のネットワーク化に関する調査結果	-----
	(1) 調査結果	-----
	(2) 調査のまとめ	-----
5	生涯学習関連施設間連携の効果的な推進	-----
	(1) 施設間連携の内容	-----
	(2) 施設間連携を効果的に推進するための視点	-----
6	事業の施設間連携事例	-----
	事例1 「健康」(県内E市)	-----
	事例2 「豊かな人間性」(県内M市)	-----
	事例3 「家庭教育」(県内O村)	-----
	事例4 「情報」(県内S町)	-----
	事例5 「国際理解」(県外A市)	-----
	事例6 「環境」(県内K村)	-----
	事例7 「環境・高齢化社会」(県内T町)	-----
7	研究のまとめ	-----
	1 研究の成果	-----
	2 今後の課題	-----
	主な参考文献	-----
	資料	-----

1 はじめに

住民の生涯学習は、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設を中心に行われており、教育関係機関以外の福祉センター、保健センター等の施設においても生活の様々な場面で生ずる諸課題を解決するための学習活動が展開されている。

近年、多様化、高度化する学習ニーズや現代社会が直面している様々な課題に対応した学習機会の拡充を図るために、生涯学習に関わる諸施設が緊密に連携しあい有機的に機能することが求められている。

平成10年の生涯学習審議会答申『社会の変化に対応した今後の社会教育行政の在り方について』では、多様化する学習活動や学習ニーズにこたえるため、社会教育施設間のみならず、首長部局が所管する各種の施設等との積極的な連携を促進し、住民にとって利用しやすい生涯学習関連施設のネットワーク化を構築していくことの必要性を指摘している。

現在、県内市町村の社会教育施設では、他の生涯学習に関わる施設と連携した事業を推進してきているものの、より一層の学習機会の拡充を図るため、多様な情報提供や学習プログラムの開発など効果的な施設間連携を進める必要があると思われる。

そこで、本研究は生涯学習の推進のための効果的な施設間連携のあり方について、県内における市町村の現状と県内外の先進事例の調査研究を通して明らかにしようとするものである。

2 施設のネットワーク化

(1) ネットワークの定義

近年、ネットワークという言葉が、社会のいろいろな分野でさかんに用いられている。『生涯学習辞典』では、ネットワークについて次のように定義している。

ネットワークとはある単位と単位をつなぐ網の目のこと。

また、施設のネットワーク化についても次のように定義している。

施設のネットワーク化とは、施設どうしが、そこにある何かを媒介として、お互いの機能的な結びつきを、いわば網の目を張りめぐらすように相互に作り上げていくこと、簡単にいえば施設間相互の連携・協力を密にすることである。

施設のネットワークは、相互関係を意味するものであるが、施設の機能に注目すると事業、人材、情報等学習資源の各ネットワークを包含する統合的なネットワークである。

本研究では、事業のネットワーク化に着目している。事業のネットワーク化を進める過程では、人材、情報等学習資源のそれぞれのネットワークも重層的に推進が図られ、ひいては施設のネットワーク化が図られる。

(2) ネットワーク化の必要性

ア ネットワーク化の必要性

わが国においてネットワーク化が注目されるようになったのは、昭和61年臨時教育審議会『教育改革に関する第二次答申』の中で下記のように『新しい柔軟な教育ネットワークの形成』を提唱してからとされている。

人間の生涯にわたる学習には、胎児期、乳幼児期から青少年期にかけての人間の生涯においてある意味で、最も重要な心身の発達が行われる時期、すなわち、豊かな人間形成の基礎・基本の時期や成人するまでの家庭、学校、地域、社会における学習・教育の時期、さらに、成人期・高齢期における余暇、生活、文化、スポーツ、職業能力開発、継続教育など多種多様な学習の時期がある。この人間の各ライフステージ別、発達段階別の学習・教育について、その連続性、適時性、選択性等の諸問題に十分に配慮する必要がある。

これに対応して、文化、教養、余暇、スポーツ、健康、職業能力開発、情報提供など各省庁所管の教育関連施設を総合的な観点から見直し、より効果的な多元的、重層的な協力のネットワークを形成するよう努めるとともに、官と民、国と地方の間でも役割分担の見直しを進める必要がある。

上記の施策の一つとして施設間のネットワーク化や学習情報のネットワーク化についてもふれられている。

各種の社会教育施設等の学習内容や学習形態を多様化、高度化し、その活性化を図るとともに、そこで人々がより広範囲な情報を得て、学習や研究に効果的に利用できるようにすることが重要である。このため、図書館、博物館等同種の施設や地域内における異種の施設のネットワーク化を図る。

学習情報のネットワークを形成するにあたっては、学習に関する広範な情報の収集・処理・提供システム（データバンク）を確立し、地域の社会教育活動の拠点となっている公民館、図書館、学校その他の関連施設の有機的な連携を図る必要がある。

また、臨時教育審議会『教育改革に関する第三次答申』をうけて、昭和63年から、市町村の生涯学習の推進体制の整備など、生涯学習のまちづくりを進める「生涯学習モデル市町村事業」が実施された。その中の生涯学習のまちづくり推進事業の事業内容の一つとして施設のネットワークづくりによる生涯学習のまちづくりがあげられている。

同じ昭和63年には、生涯学習関連施設のネットワーク形成に関する懇談会報告『生涯学習推進のためのネットワーク形成について』の中で、ネットワーク化の必要性について次のように述べられている。

人々の多様な学習要求に応え、生涯学習を推進していくためには、

学校、家庭、地域社会という社会の各分野の広範な教育・学習体制や学習機会を総合的に整備し、社会共通の学習基盤として有機的に活用することが重要である。

そのためには、公共施設ばかりでなく民間施設をもその視野に入れ、身近にある生涯学習関連の施設をより魅力あるものとして整備するとともに、各施設相互の連携・協力（ネットワーク化）を図り、文化サービス機能、情報サービス機能や学習相談機能、学習の場の提供機能などをもつ施設として整備し、その機能を最大限に活用していく必要がある。

これ以後、国の各種の審議会において、ネットワーク化に関する答申が繰り返し行われている。これらの答申では、学習プログラム開発、学習需要に対応した学習機会提供のための施設間の連携・協力や社会福祉施設や労働関係施設そして民間との連携・協力の推進、他市町村との連携・協力の推進などが指摘されている。そして平成10年には、これらを支援していく仕組みとしてネットワーク型行政の必要性についても指摘された。

昭和61年臨時教育審議会によってネットワーク化が提唱されて以来、本県においても情報提供システムの構築や首長部局との連携による生涯学習カレンダー作成等のネットワーク化が進められているが、近年、一層の充実が求められている。

イ ネットワーク化の効果

前掲の昭和63年生涯学習関連施設のネットワーク形成に関する懇談会報告『生涯学習推進のためのネットワーク形成について - 中間まとめ - 』では、ネットワーク化によって期待できることとして下記のような効果があげられている。

利用者の便宜が図られるとともに、人々の生活時間が有効に活用される機会を増やし、豊かな生活を保障することとなること。

各施設のもつ潜在力の活用により、相乗効果や、個別の施設ではもち得なかった二次的価値が生み出され、より高度な充実したサービスの提供が可能となること。

既存施設等の活性化や有効な活用が図られること。

上記のことからもわかるようにネットワーク化による効果は、学習者及び学習機会を提供する施設の双方にもたらされる。その効果に関して学習内容・方法、学習情報、学習成果の活用、事業の運営に着目して整理すると下表のようになる。

表 - 1 ネットワーク化による効果

	学習者側	施設側
学習内容 ・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の選択の幅が拡大される ・特定分野の学習を体系的、段階的、総合的に学習できる ・多様な学習方法を選択できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・より高度な学習内容を提供できる ・多様な学習プログラムを提供できる ・ニーズが高い学級・講座だけでなく、現代的課題に関する学級・講座の開設が可能になる
学習情報	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に関する多様な情報の入手が容易になる ・学習の進度や学習者に対応した情報の入手が容易になる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的要請の高い課題等の情報の入手が容易になる ・指導者、教材、学習プログラムなどに関する情報の共有と蓄積が進む

学習成果 の活用	・学習の成果を生かした社会参加活動 の場や機会が確保できる	・提供できる社会参加活動の場や機会 に関する情報が豊富になる
事業の運 営	・様々な学習機関が有する、多様な学 習資源の活用が可能となる	・人員の不足を補うことができる ・財政負担が軽減される ・効果的な広報ができ、参加者が確保 される ・指導者の確保が容易になる

(平成6年生涯学習審議会社会教育分科審議会施設部会報告、平成2年新潟県生涯学習推進会議の調査結果、平成11年埼玉県教育委員会の調査結果をもとにまとめた)

このようにネットワーク化によって、施設には様々な効果が生まれるとともに、学習者の多様化、高度化する学習ニーズにこたえることができ、事業に対する満足度を高め、学習活動の広がりが期待できると言える。

ウ 学習機会の拡充とネットワーク化

生涯学習を推進する施設は、住民の多様化、高度化する学習ニーズへの対応とともに、現代社会が直面している課題等への対応も求められている。

平成4年生涯学習審議会答申『今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策』では、「社会教育施設や首長部局等が行う学級・講座の学習内容は、一般的な教養、レクリエーション関係などが多く、現代的課題のような社会性、公共性のある学習課題への取り組みは十分ではないことが指摘され、今後、行政施策として、比較的学習ニーズの低いこれら現代的課題に関する学習機会の提供を図っていくことの必要性が強調されるとともに、生涯学習関連機関の連携・協力の強化についても指摘されている。

さらに、平成6年生涯学習審議会報告『学習機会提供を中心とする広域的な学習サービス網の充実について - 新たな連携・協力システムの構築を目指して - 』においても、社会教育施設等の事業では現代的課題や専門的テーマにかかる学習機会が少ないことが指摘され、その学習機会提供の方策として各施設の機能充実を図ることに加え、大学、社会福祉施設、労働関係施設、さらには民間との連携・協力の推進が述べられている。

そのことは、県内公民館が実施した学級・講座の学習内容を調査した岩手県立生涯学習推進センター『公民館事業に関する調査』(平成8年実施)を参考とした(図-1)「公民館における学級・講座の学習内容」からも理解できる。それによると、趣味・教養に関する内容が69.6%と最も多く、それに比較して福祉、人権・生命、環境等の現代的課題に関する内容は少ない。

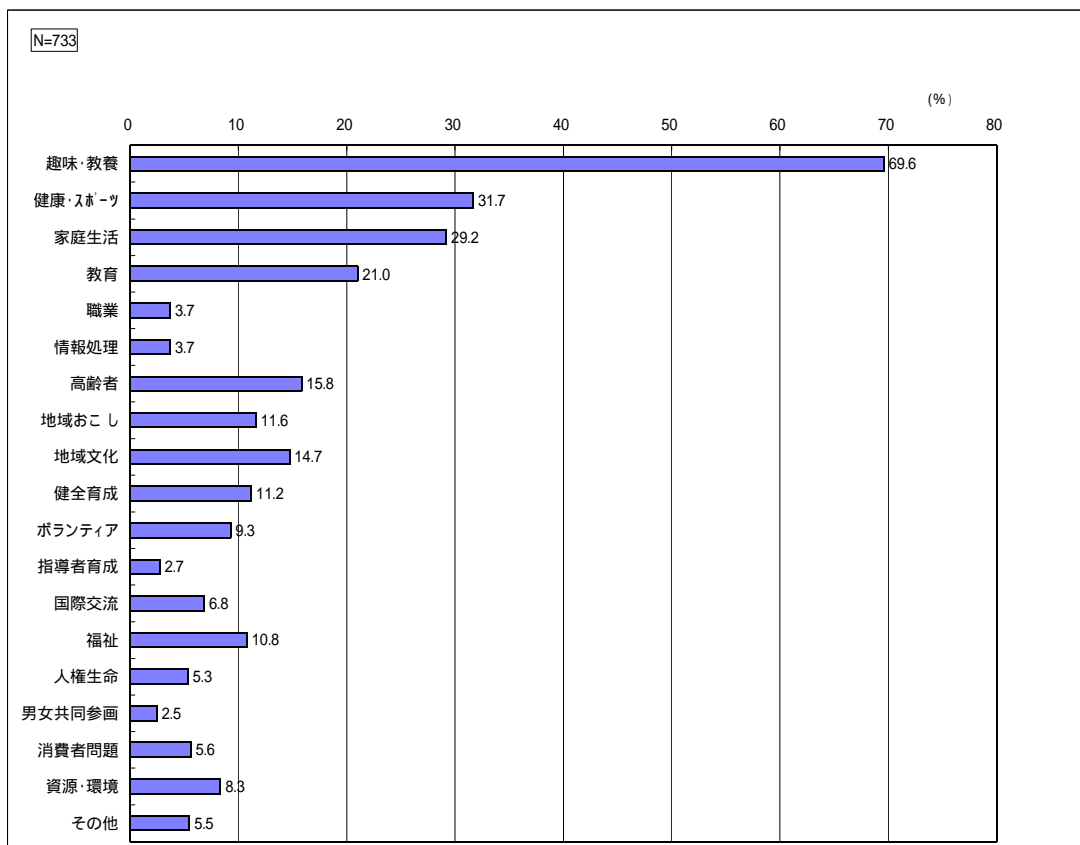
公民館等の社会教育事業に関してこれまで担当者の間からは、「趣味・教養の講座には人が集まるが、現代的課題には人がこない。」「現代的課題をテーマにするノウハウがない。」「人的、財政的に趣味・教養の講座が主となっている。」ということが指摘されてきた。

生涯学習を推進する施設は、趣味・教養のための学級・講座の開設とあわせ、現代的課題や地域の課題を学習内容とした学級・講座の開設と充実が期待されている。とりわけ公共施設には、地方分権や財政的な課題そして社会性、公共性が問われる中で、現代的課題や地域の課題に関する事業の充実が求められていくと思われる。

このように施設には、学習機会の拡充が常に命題として掲げられているが、一方では限られた施設規模、人、財政等のわくの中で事業を進めなければならない状況がある。すなわち、新

しい施設を建設するということも、人的体制の充実も、それを裏づける財源確保も厳しい状況にある。このようなときに活路を見いだす一つの方策として、既存の施設の持ち味を最大限に生かしながら施設間のネットワーク化を図ることが重要であると思われる。

図 - 1 公民館における学級・講座の学習内容



2 生涯学習関連施設とは

(1) 生涯学習関連施設とは

昭和63年生涯学習関連施設のネットワーク形成に関する懇談会報告『生涯学習推進のためのネットワーク形成について - 中間まとめ - 』の中で、生涯学習関連施設について次のように述べている。

社会共通の学習基盤としての生涯学習関連施設としては、学校、社会教育施設など教育機能をもつ施設や職業訓練施設などのほかに、地域の生活拠点である駅、ショッピングセンター、病院、庁舎、郵便局、銀行、農協、事業所などの施設で、その活用により、住民等の便宜を図りながら学習に利用できるものも視野に入れて考えていく必要がある。

(2) 主な生涯学習関連施設

前掲のように生涯学習関連施設は多種多様であるが、施設はそれぞれに設置目的を持って、その目的達成のために独自に管理、運営を行っている。それを岩手県の実況を勘案しながら設置目的別に整理したのが(表 - 2)「主な生涯学習関連施設」である。

表 - 2 主な生涯学習関連施設

目的別施設	主 な 施 設
社会教育施設	公民館、図書館、博物館、美術館、視聴覚センター・ライブラリー、少年自然の家、青少年の家、青少年センター、婦人教育会館など
文化施設	文化会館、記念館、音楽堂、ギャラリー、文学館、資料館など
体育施設	体育館、陸上競技場、運動公園、グラウンド、球技場、プール、格技場、スキー・スケート場、トレーニングセンターなど
福祉施設	福祉センター、保健センター、児童館、保育所、養護施設、老人福祉センター、保養センター、障害者施設、健康管理センターなど
農林漁業関係施設	農林会館、農協会館、水産会館、農村青年研修館、農村婦人の家、生活改善センター、林業研修所、林業センター、漁業会館、漁村センターなど
商工労働関係施設	勤労福祉会館、勤労センター、労働会館、観光センター、勤労青少年会館、勤労青少年ホーム、働く婦人の家、勤労婦人会館、消費生活センターなど
試験・研究施設	農業試験場、園芸試験場、畜産試験場、養蚕試験場、林業試験場、工業試験場、水産試験場、栽培漁場センター、海洋研究所、衛生研究所など
野外活動レクリエーション施設	野外活動センター、ユースホステル、国民休暇村、国民保養センター、キャンプ場、県民の森、子どもの森、自然休暇村など
学校等	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、高等専門学校、大学・短大、特殊教育諸学校、専修学校など
総合施設	市町村民会館、教育会館、生涯学習センター、地区活動センターなど
その他の施設	民間教育関係施設、その他

(平成4年度岩手県教育委員会『市町村における生涯学習推進の手引き』)

以上のことから、本研究では、県内市町村の施設間連携の実態把握や先進事例の調査研究を通して、学習機会の拡充を図るための効果的な施設間連携のあり方をさぐるものである。

4 県内市町村における生涯学習関連施設間のネットワーク化に関する調査結果

本調査は、生涯学習関連施設における平成12年度事業推進のための施設間連携の実態を把握するため県内59市町村教育委員会に対して行ったものである。以下は、その概要である。

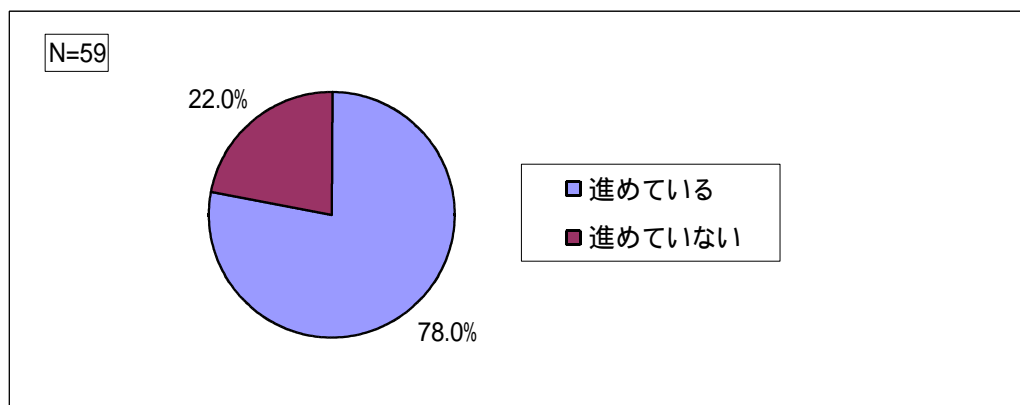
(1) 調査結果

ア 施設間連携の有無

「施設間連携を進めている」が78.0%（46教育委員会）、「施設間連携を進めていない」が22.0%（13教育委員会）である。

連携の内容や連携施設等については後述することとする。なお、連携をしなかった理由としては、「必要性を感じない」（4教育委員会）、「事務量が多くなる」、「時間がかかる」（3教育委員会）などとなっている。

図 - 2 施設間連携の有無



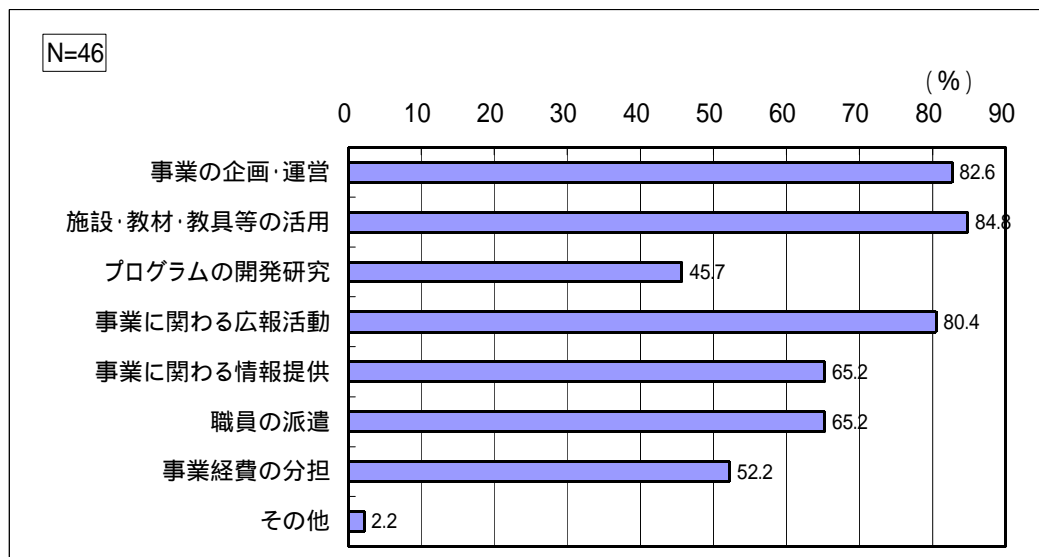
イ 施設間連携の現状

施設間連携をしている教育委員会のうち連携の中心となって進めている施設の連携の現状について、どのような場面で連携を行っているかをたずねたところ以下のような結果となった。

(ア) 内容

「施設・教材・教具等の活用」が84.8%（39施設）と最も多く、以下「事業の企画・運営」が82.6%（38施設）、「事業に関わる広報活動」が80.4%（37施設）となっている。

図 - 3 施設間連携の内容（複数回答）



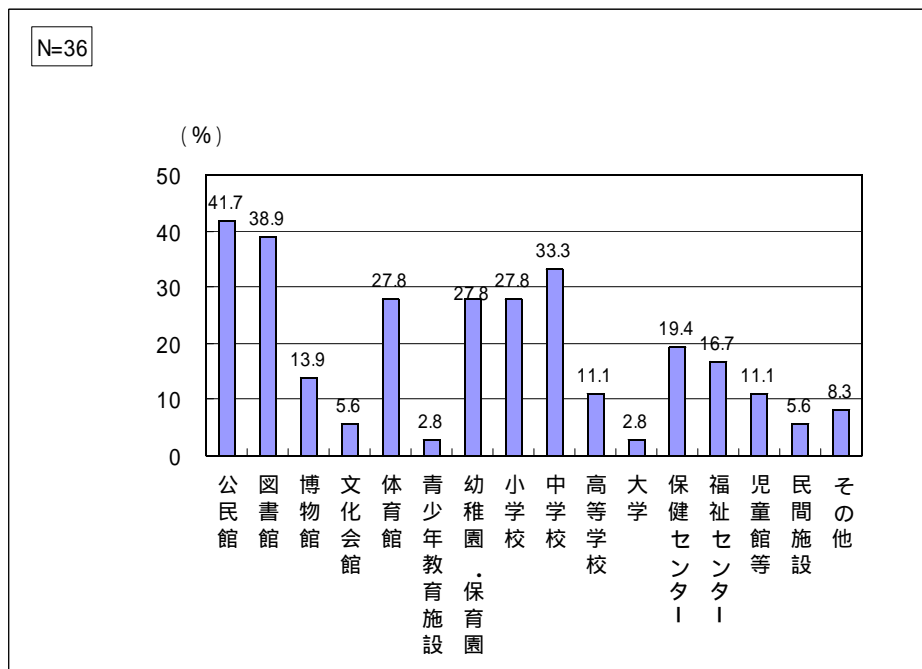
(1) 連携施設

さらに、どのような施設と連携したかを内容別に調査した。なお、施設間連携の中心となっている施設として回答数の最も多かった公民館に焦点をあて、公民館がどのような施設と連携しているかを見ることとした。

事業の企画・運営における連携施設

「公民館」が41.7%（15施設）と最も多く、以下「図書館」が38.9%（14施設）、「中学校」が33.3%（12施設）となっている。

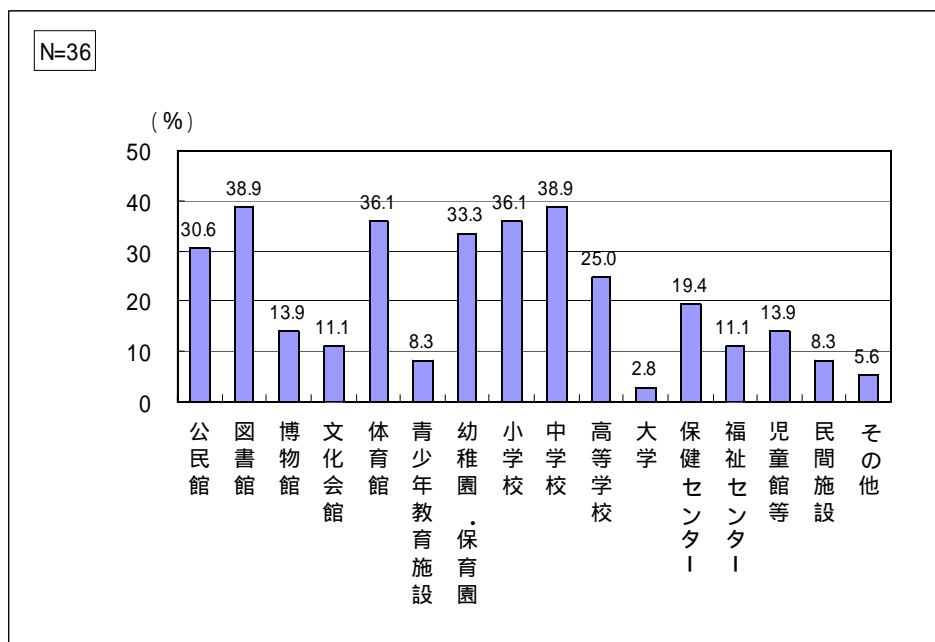
図 - 4 事業の企画・運営における連携施設（複数回答）



施設・教材・教具等の活用における連携施設

「図書館」、「中学校」が38.9%（14施設）と最も多く、以下「体育館」、「小学校」が36.1%（18施設）となっている。

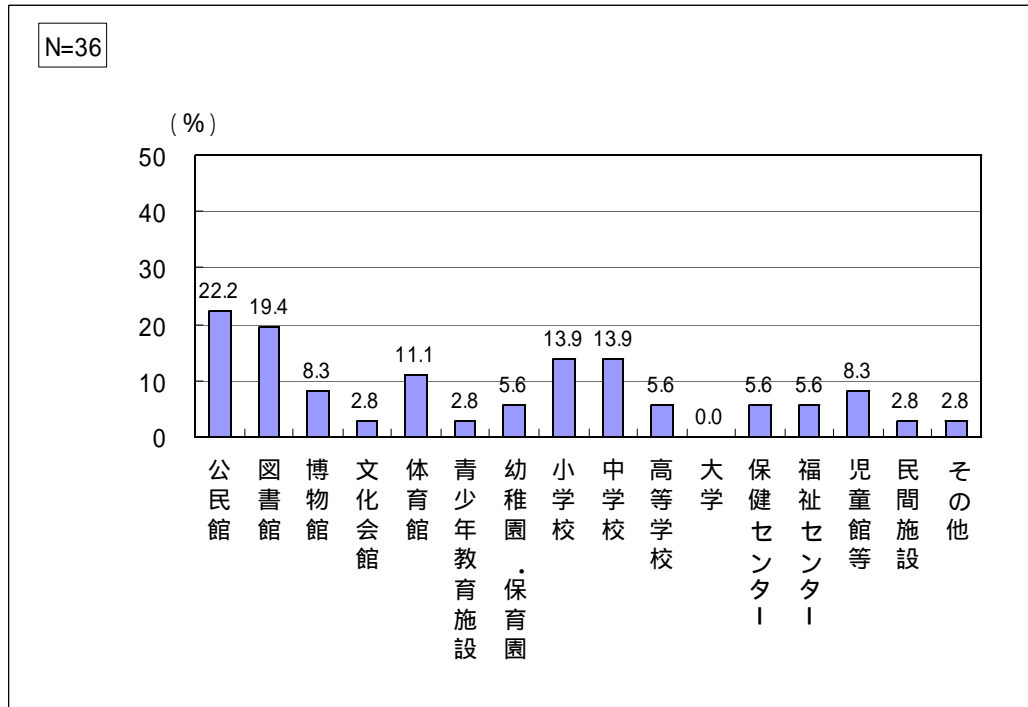
図 - 5 施設・教材・教具等の活用における連携施設（複数回答）



プログラムの開発研究における連携施設

「公民館」が22.2%（8施設）と最も多く、以下「図書館」が19.4%（7施設）、「小学校」、「中学校」が13.9%（5施設）となっている。

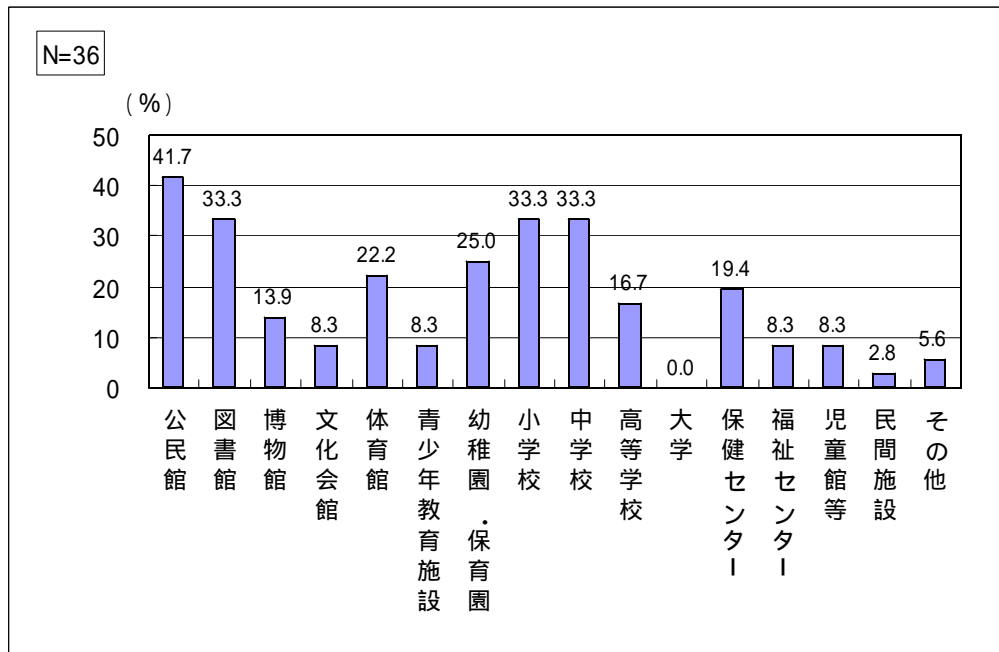
図 - 6 プログラムの開発研究における連携施設（複数回答）



事業に関わる広報活動における連携施設

「公民館」が41.7%（15施設）と最も多く、以下「図書館」、「小学校」、「中学校」が33.3%（12施設）となっている。

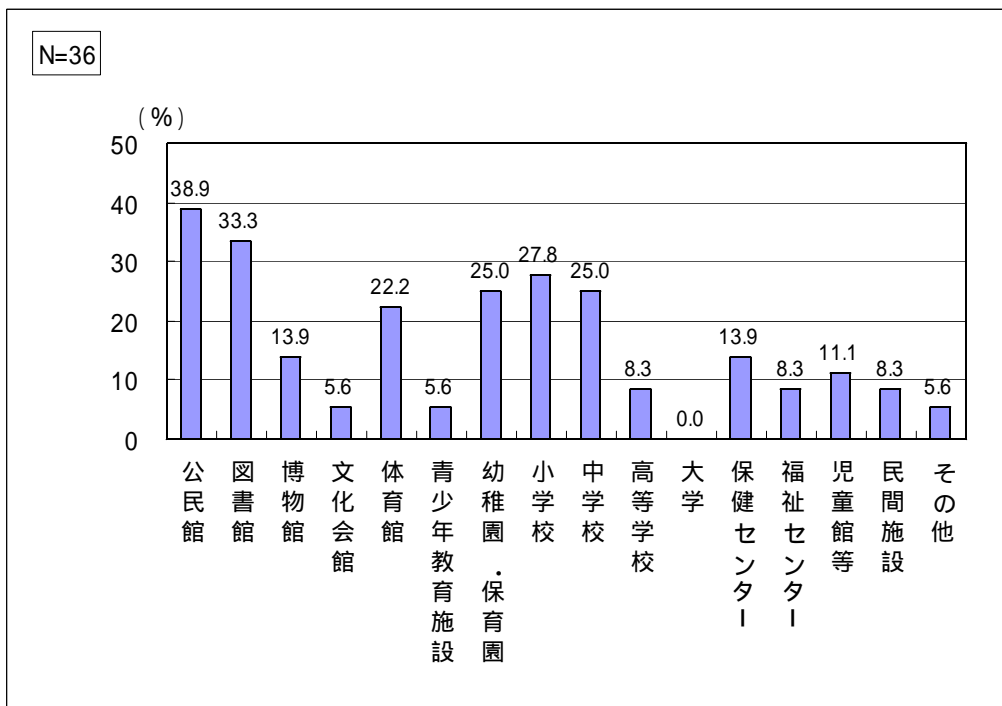
図 - 7 事業に関わる広報活動における連携施設（複数回答）



事業に関わる情報の提供における連携施設

「公民館」が38.9%（14施設）と最も多く、以下「図書館」が33.3%（12施設）、「小学校」が27.8%（10施設）となっている。

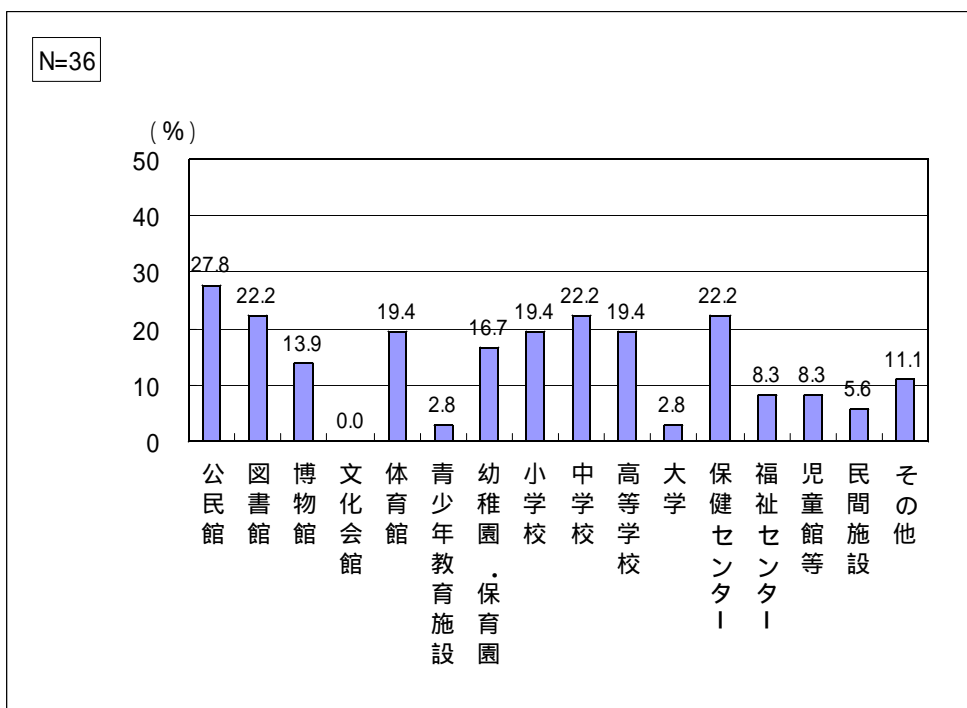
図 - 8 事業に関わる情報の提供における連携施設（複数回答）



職員の派遣における連携施設

「公民館」が27.8%（10施設）と最も多く、以下「図書館」、「中学校」、「保健センター」が22.2%（8施設）となっている。

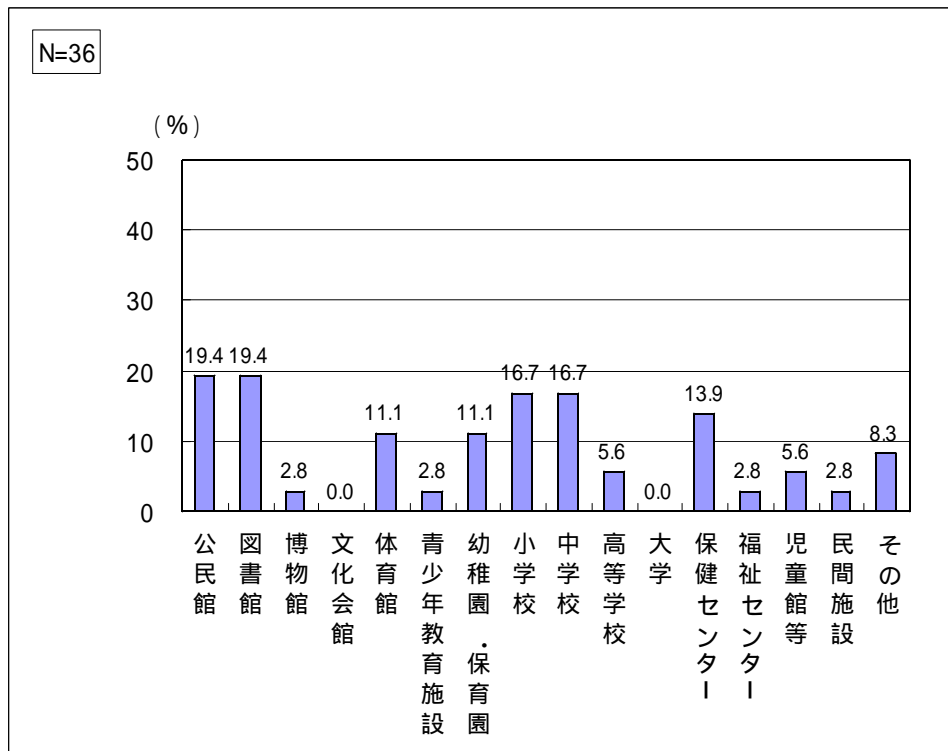
図 - 9 職員の派遣における連携施設（複数回答）



事業経費の分担における連携施設

「公民館」、「図書館」が19.4%（7施設）と最も多く、以下「小学校」、「中学校」が16.7%（6施設）となっている。

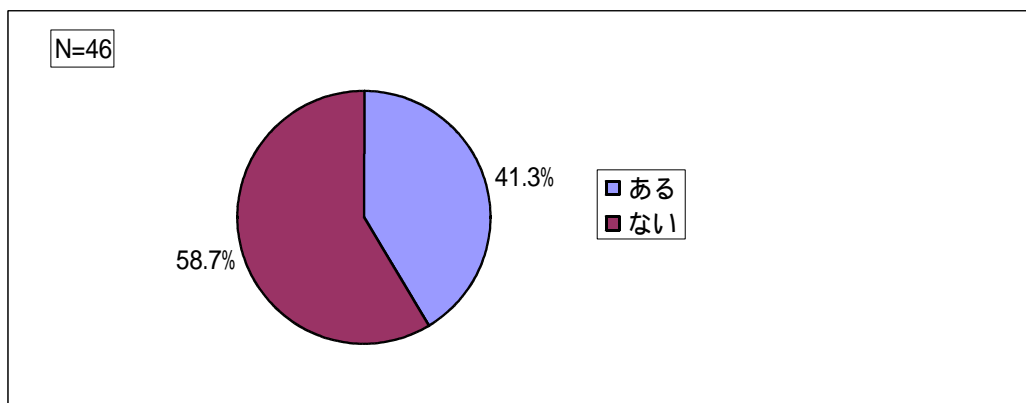
図 - 10 事業経費の分担における連携施設（複数回答）



ウ 組織の有無

「組織がある」が41.3%（19施設）、「組織がない」が58.7%（27施設）となっている。

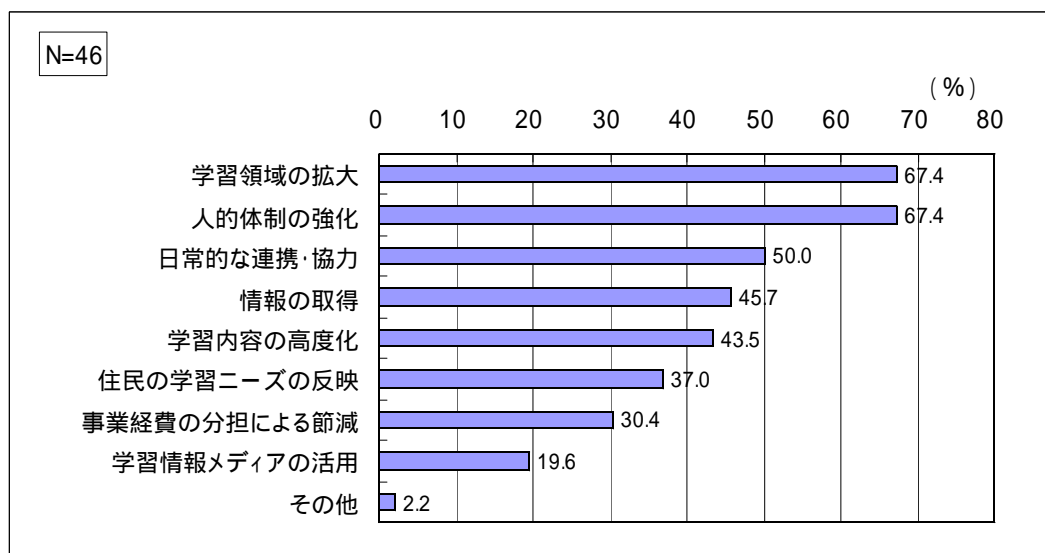
図 - 11 組織の有無



エ 施設間連携の効果

「学習領域を広げるなど多様な学習機会を提供することができた」と「人的体制の弱さをカバーできた」が67.4%（31施設）と最も多く、以下「他の施設と日常的な連携・協力が可能になった」が50.0%（23施設）、「事業を実施するうえで必要な情報を得ることができた」が45.7%（21施設）となっている。その他については「他の施設との事業の重複がさげられた」（1施設）という内容であった。

図 - 13 施設間連携・協力の効果（複数回答）



オ 施設間連携の問題点

施設間連携を進めるうえでどのような問題点があるのかを、記述式でたずねた。具体的に記述された内容をもとに整理すると、企画・運営に関すること、学習内容に関すること、職員に関することに大別されるが、詳細は以下の通りである。

表 - 3 施設間連携の問題点

企画 ・ 運営	・会議や事業の実施日等日程の調整が難しい（5施設）
	・事業全体をコーディネートする人的体制がない（3施設）
	・企画・立案が難しく時間がかかり、その後の日程がきつくなる（1施設）
	・各施設の新しい情報が不足している（1施設）
	・連携する事項が明確化されていない（1施設）
学習 内容	・学習内容の調整が難しい（2施設）
	・学習内容に進歩がない（2施設）
	・学習内容を検討する時間が少ない（1施設）
職員	・連携の相手先についての理解が不足している（2施設）
	・施設間の職員どうしの共通理解を図るのが難しい（2施設）
	・職員数が不足している（1施設）

カ 施設間連携の継続

施設間連携・協力を今後も継続するかどうかをたずねたところ、施設間連携・協力をしていくすべての施設（46施設）が今後も継続すると回答した。

(2) 調査結果のまとめ

ア 施設間連携の現状について

県内46教育委員会では、何らかの形で事業に関わる施設間連携を進めている。連携を進めているすべての施設は、今後も連携を継続すると回答している。

これは、施設間連携の効果やノウハウが生かされ、さらなる連携の必要性を高めていると思われる。

連携を進めていない教育委員会では、「必要性を感じない」、「事務量が多くなる」、「時間がかかる」などを理由としてあげている。それらの教育委員会や施設に対しては、連携の必要性について理解を図ったり、連携のためのノウハウを情報提供する必要があると思われる。

イ 施設間連携の内容について

施設間連携は主に「施設・教材・教具等の活用」、「事業の企画・運営」、「事業に関わる広報活動」などの場面において行われているものの、「プログラムの開発研究」は少ない。

このことは、実際に事業を展開する場面での施設間連携は進んでいるが、多様化・高度化する学習ニーズに対応し、学習活動の質を高めるために必要な「プログラムの開発研究」での連携の必要性が低いことをあらわしていると思われる。

ウ 連携施設について

連携施設は、「事業の企画・運営」、「施設・教材・教具等の活用」、「プログラムの開発研究」などどのような場面においても公民館、図書館、体育館等の社会教育施設と幼稚園、小学校、中学校等の学校が主たる連携施設となっている。

今後、多様な学習ニーズや現代的な課題等に対応した学習機会の拡充を図るためには、これまであまり連携施設として考えられなかった様々な生涯学習関連施設との連携を模索していく必要があると思われる。

エ 連携推進のための組織について

施設間連携を進めるための組織を設置している施設は、半数に満たない。これは、組織の必要性や役割、運営方法等の理解が十分ではないことによるものと思われる。

オ 施設間連携の効果と問題点について

施設間連携を行ったことによる効果としては、「学習領域を広げるなど多様な学習機会を提供することができた」、「人的体制の弱さをカバーできた」などの項目で高い比率となっている。その他の内容では、「他の施設と事業の重複がさけられた」であった。施設が単独で事業を進めたときには得られない効果が多元的に現れている。

一方、問題点として、記述式回答の中からの意見によると、「会議等の日程調整が円滑に行われなかったこと」、「事業をコーディネートする体制がないこと」など施設間連携を進めるにあたって企画・運営等の全体を調整する機能の不足が指摘されている。

また、「学習内容の調整が難しいこと」、「学習内容に進歩がないこと」など事業の学習活動を展開する上で重要である学習内容そのものについて、課題が指摘されている。

さらに、「連携の相手先について理解が不足していること」、「施設間の職員どうしの共通理解を図るのが難しいこと」という課題もある。これは、施設間連携に不可欠な施設の理解、職員どうしの共通理解など連携推進の土台となる情報交流が十分に図られないまま、連携が進められている現状をあらわしていると思われる。

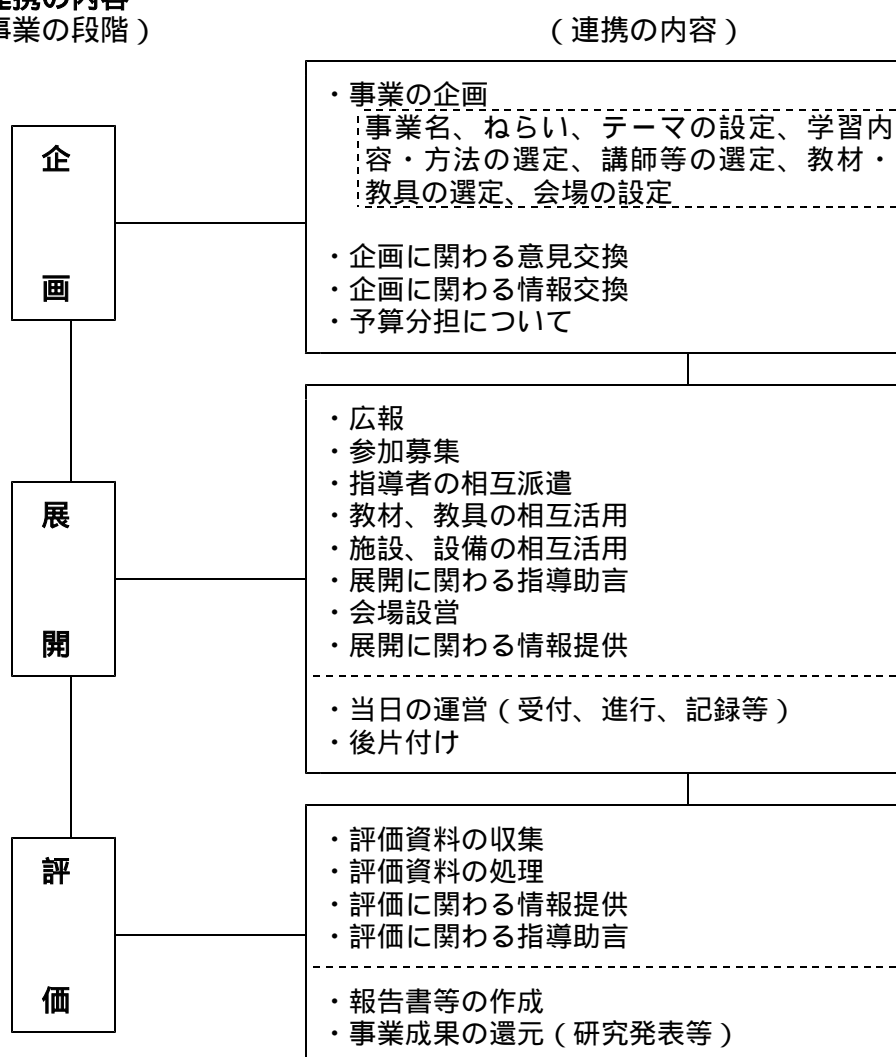
5 生涯学習関連施設間連携の効果的な推進

(1) 施設間連携の内容

事業における施設間連携の局面は、事業推進のプロセスと不可分な関係にある。すなわち、企画から評価まで事業全体を通してでも、また企画、展開、評価といった事業の段階のいつでも連携活動の展開が可能である。

この事業推進のプロセスと連携内容について平成9年度岩手県立生涯学習推進センター研究発表会資料『生涯学習推進のための公民館事業の在り方に関する研究』では下記のように示されている。

図 - 14 連携の内容
(事業の段階)



(2) 施設間連携を効果的に推進するための視点

県内調査によれば、施設間連携を進めている施設において、連携のための調整機能をもつ組織を設置していない施設が多かった。また、学習支援に不可欠なプログラム開発について施設間連携によって共同開発を進めているという事例もけっして多いという状況にはなかった。これら2点は、施設間連携を進める上ではもとより、現代的課題に関する学習など学習機会を充実させる上でも重要な要件となるものと考ええる。

また、必要な情報をもたず、かつ発信しない施設は円滑な連携を進めることができないと言わ

れている。すなわち情報の共有が、連携の糸口になり、連携の円滑化が図られる。

このようなことから、施設間連携を効果的に進めるための視点として組織の整備、学習プログラムの共同開発、施設間相互の情報交流の充実をすえ、その推進の方策について述べてみることにした。

ア 組織の整備

地域における様々な学習活動を総合的に推進するためには、地域にある関係施設による事業の推進、連絡、調整機能を受け持つ組織を整える必要があるとされている。施設間の連携という視点からは連携しあう相互の職員間による情報交換等の場として組織が必要であり、そのことが、施設間連携を効果的に推進し、維持し、発展させていくための核となっていくと思われる。本研究の調査結果でも自由記述の設問「連携を進める上での問題点」として「事業全体のコーディネート」、「日程等の調整」などが問題点としてあげられ、連携施設の担当者等が同じテーブルにつくことの必要性が指摘されている。

なお、組織の役割については

- 事業計画の企画及び調整
- 連携方策の調整
- 役割分担の調整
- 各種の情報交換
- 事業の反省評価

などがあげられる。その他、職員の共通理解の場、現代的課題や地域課題等の社会が直面している課題の学習の場として、組織が開催する職員合同研修会を開催するなどの役割も考えられる。

また、組織の構成員は、各施設の事業を担当する職員など実務レベルの者で構成する他、教育委員会、各施設の所属長を含めたり、学習テーマにかかわる専門的知識・技能を有した専門家、学識経験者等を含めることも考慮する必要がある。また、地域住民の声が反映されるような配慮も必要である。

イ 学習プログラムの共同開発

住民の学習支援にかかわる施設にとって、学習プログラムの開発は重要な課題であるとともに継続的な課題であると考えられる。とりわけ、現代的課題や地域課題等を学習テーマとした事業では、どのような学習内容を、どのように展開していくかが大きな課題となる。幅広い領域にわたって存在するこれらの課題に対応する学習プログラムを単独の施設で対応するには限界がある。それぞれの施設の学習情報や学習資源をもちよって、共同で学習プログラムを開発することで施設間連携の効果的な推進が図られる。

学習プログラムを共同で開発する際の観点は、次のようにまとめられる。

- 現代的課題、地域課題に関する地域の実情の共通理解を図る。
- 現代的課題の学習テーマの達成目標の共通理解を図る。
- 連携しあう施設の機能について共通理解を図る。
- 所有する講師・指導者等の学習資源の情報を交流する。
- 専門的な知識を有した専門家のアドバイスを受ける。

この他に、開発したプログラムを他の生涯学習関連施設で活用できるように情報提供の方法を検討したり、事業終了後、開発したプログラムの成果や課題を考慮してリニューアルするなど視野に入れておく必要がある。

このように学習プログラムを共同開発するならば、施設の職員間の協力体制が強化されたり、他の連携事業がやりやすくなるなどの相乗効果をもたらされると思われる。

ウ 施設間相互の情報交流の充実

施設間連携を推進するためには、それぞれの施設が所有する学習資源に関する情報を持ち寄ることが不可欠となる。例えば、個々の施設の建物、設備等の物的条件、職員、ボランティアなどの人的条件、事業、展示物、財政等のソフト的条件などである。

また、学習テーマに関する講師・指導者、プログラム、文献・資料等施設がもっている情報についても交流する必要がある。

さらには、それらが幅広くネットワーク化され、情報の収集が進み、交流されることも大切になってくるものと思われる。

このような施設間の情報交流をさらにインターネットを利用して学習者と結びつけていくことが実現されれば、学習者自らが学習計画を立案し、多様な方法で学習活動を展開することが可能となると思われる。

6 事業の施設間連携事例

ここでは、県内及び県外の生涯学習関連施設で事業を推進するために、どのような施設間連携をしているかについて、学習機会の拡充を図る上で特に必要とされている現代的課題についての先進事例を取り上げた。

なお、課題に関しては、平成11年に出された岩手県総合計画の先導的視点(キーワード)「環境、ひと、情報」という地域の課題を勘案しながら、具体的には平成4年生涯学習審議会答申で出された現代的課題に対応する事例を検索した。学習の対象が各世代にわたること、数多くの施設や様々な施設と連携していること、様々な連携の内容が見られること、多くの成果が見られること、これらが全体として網羅されるように心がけた。その結果、下記の7つの事例が抽出された。紙幅の都合上、一部割愛しているが、個々の特徴を反映するように配慮して掲載することとした。

- 事例1 「健康」(県内E市I公民館)
- 事例2 「豊かな人間性」(県内M市M公民館)
- 事例3 「家庭教育」(県内O村O図書館)
- 事例4 「情報」(県内S町T公民館)
- 事例5 「国際理解」(県外A市M公民館)
- 事例6 「環境」(県内K村生涯学習ステーション)
- 事例7 「環境・高齢化社会」(県内T町中央公民館)

事例1 「健康」(県内E市I公民館)

連携施設	保健センター													
連携のねらい	より多くの参加者を集め、健康に関する学習機会を充実させる													
事業の概要	<p>1 事業名 健康づくり教室</p> <p>2 ねらい ・地区民一人一人が健康で、明るい地域づくりをめざすため、情報の所得と実践の中で各世代のコミュニティーをはかる。</p> <p>3 対象 地区民</p> <p>4 内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>第 1 回 目</th> <th>第 2 回 目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内 容</td> <td>講演 「肩こりと腰痛予防」</td> <td>実技指導 「健康体操」</td> </tr> <tr> <td>講 師</td> <td>I市医師会会長</td> <td>体育指導員</td> </tr> <tr> <td>会 場</td> <td>I公民館講義室</td> <td>I公民館和室</td> </tr> </tbody> </table>			第 1 回 目	第 2 回 目	内 容	講演 「肩こりと腰痛予防」	実技指導 「健康体操」	講 師	I市医師会会長	体育指導員	会 場	I公民館講義室	I公民館和室
	第 1 回 目	第 2 回 目												
内 容	講演 「肩こりと腰痛予防」	実技指導 「健康体操」												
講 師	I市医師会会長	体育指導員												
会 場	I公民館講義室	I公民館和室												
連携の概要	<p>企 画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画に関わる情報提供(保健センター) ・企画・立案(公民館、保健センター) ・予算措置(保健センター) <p>展 開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ作成(公民館) ・広報(公民館、保健センター) ・講師依頼(公民館) ・プログラム、資料作成(公民館) ・当日の運営(公民館、保健センター) <p>評 価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反省会(公民館、保健センター) 													
連携の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの施設の特徴を出し合い連携を進めたことにより、円滑に事業が展開され、事務量も軽減された。 ・多様な広報活動を実施したことにより、多くの参加者を集めることができた。 ・施設間連携をしたことにより、市内全地区の事業として広がった。また、連携のノウハウが確立され、次年度への継続が可能となった。 													

事例2 「豊かな人間性」(県内M市M公民館))

連携施設	山形県Y町N公民館・T公民館、宮城県O町O公民館									
連携のねらい	互いの施設がもっている地域性を生かし、多様な学習機会を提供する									
事業の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1 事業名 ふるさとワンダー再発見 2 ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・県境を越えた児童が、各地域の特色ある自然や文化を体験するとともに、交流を深めること ・海・山・森・原っぱ・沼での体験を通じて、自然に親しみ、自然を理解するとともに、自然の環境に適応し、時にはこれを克服して活動できるたくましい心身を育てること。 3 対象 小学4年生～6年生 4 内容 										
	回	実施	内 容	会 場						
	第1回	6月 1泊2日	キャンプの仕方 ・仲間作り ・テント張り ・野外炊飯等	M市森林公園						
	第2回	7月 1泊2日	海や磯での探検 ・遊泳 ・釣り ・カヌー等	Y町海浜青年の家						
	第3回	9月 1泊2日	山と沼での探検 ・ボート ・登山 ・工作等	M市森林公園 県青少年の家						
	第4回	10月 1泊2日	森での探検 ・森林施業 ・星の観察 ・工作等	M市森林公園 県青少年の家						
第1回と第4回はM公民館が単独で実施										
連携の概要 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">企 画</td> <td style="padding: 2px;">・企画（M公民館、N公民館、T公民館、O公民館で協議）</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">展 開</td> <td style="padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ作成（O公民館） ・募集（各公民館） ・講師依頼（M公民館、Y公民館） ・当日の運営（M公民館、N公民館、T公民館、O公民館） </td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評 価</td> <td style="padding: 2px;">・反省会（M公民館、N公民館、T公民館、O公民館で協議）</td> </tr> </table>					企 画	・企画（M公民館、N公民館、T公民館、O公民館で協議）	展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ作成（O公民館） ・募集（各公民館） ・講師依頼（M公民館、Y公民館） ・当日の運営（M公民館、N公民館、T公民館、O公民館） 	評 価	・反省会（M公民館、N公民館、T公民館、O公民館で協議）
企 画	・企画（M公民館、N公民館、T公民館、O公民館で協議）									
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ作成（O公民館） ・募集（各公民館） ・講師依頼（M公民館、Y公民館） ・当日の運営（M公民館、N公民館、T公民館、O公民館） 									
評 価	・反省会（M公民館、N公民館、T公民館、O公民館で協議）									
連携の成果 <ul style="list-style-type: none"> ・担当者会議を開催することによって、施設や職員間の理解を図ることができた。 ・地域性を生かした学習内容を準備することができ、参加者に好評であった。 ・当日の運営など職員体制を充実させることができた。 										

事例3 「家庭教育」(県内〇村〇図書館)

連携施設	小学校、保育所、児童館																																																														
連携のねらい	村内全域の幼児・児童、親を対象として、多くの参加者に学習機会を提供する																																																														
<p>事業の概要</p> <p>1 事業名 土曜探検隊</p> <p>2 ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水辺の小動物の営みや野の花、虫、鳥たちが互いにつながりをもって生きていることを発見し、自然の大切さと命の貴さを知る。 ・地域の資源を生かした鉄(たたら)づくりや七宝焼製作をとおして、実験の楽しさと村の鉄の歴史を体験する。 <p>3 対象 村内幼児・児童、親</p> <p>4 内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施</th> <th>内容</th> <th>実施</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月</td> <td>べっこうあめづくり</td> <td>10月</td> <td>草木染め</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>パート・ウッチング</td> <td></td> <td>パート・ペインティング</td> </tr> <tr> <td></td> <td>よもぎだんごづくり</td> <td></td> <td>押し花しおり作り</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>自然観察</td> <td></td> <td>七宝焼</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ヨーグルトづくり</td> <td></td> <td>パート・カービング</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>草木染め</td> <td>11月</td> <td>手すき和紙作り</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水生生物観察(2会場)</td> <td></td> <td>パート・カービング</td> </tr> <tr> <td></td> <td>たたら跡見学と砂鉄</td> <td></td> <td>豆腐作り</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>たたら体験</td> <td>12月</td> <td>パート・カービング</td> </tr> <tr> <td></td> <td>リサイクル施設等見学</td> <td></td> <td>クリスマスキャンドル作り</td> </tr> <tr> <td></td> <td>たたら館見学</td> <td>1月</td> <td>七宝焼(4会場)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>自然観察</td> <td></td> <td>ミズキだんご作り</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>水生生物観察(2会場)</td> <td>2月</td> <td>七宝焼(2会場)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>パン作り</td> <td>3月</td> <td>押し花のしおり作り他</td> </tr> </tbody> </table> <p>村内4児童館、近隣の森林等を会場に開催した</p>				実施	内容	実施	内容	4月	べっこうあめづくり	10月	草木染め	5月	パート・ウッチング		パート・ペインティング		よもぎだんごづくり		押し花しおり作り	6月	自然観察		七宝焼		ヨーグルトづくり		パート・カービング	7月	草木染め	11月	手すき和紙作り		水生生物観察(2会場)		パート・カービング		たたら跡見学と砂鉄		豆腐作り	8月	たたら体験	12月	パート・カービング		リサイクル施設等見学		クリスマスキャンドル作り		たたら館見学	1月	七宝焼(4会場)		自然観察		ミズキだんご作り	9月	水生生物観察(2会場)	2月	七宝焼(2会場)		パン作り	3月	押し花のしおり作り他
実施	内容	実施	内容																																																												
4月	べっこうあめづくり	10月	草木染め																																																												
5月	パート・ウッチング		パート・ペインティング																																																												
	よもぎだんごづくり		押し花しおり作り																																																												
6月	自然観察		七宝焼																																																												
	ヨーグルトづくり		パート・カービング																																																												
7月	草木染め	11月	手すき和紙作り																																																												
	水生生物観察(2会場)		パート・カービング																																																												
	たたら跡見学と砂鉄		豆腐作り																																																												
8月	たたら体験	12月	パート・カービング																																																												
	リサイクル施設等見学		クリスマスキャンドル作り																																																												
	たたら館見学	1月	七宝焼(4会場)																																																												
	自然観察		ミズキだんご作り																																																												
9月	水生生物観察(2会場)	2月	七宝焼(2会場)																																																												
	パン作り	3月	押し花のしおり作り他																																																												
<p>連携の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画委員会の設置 <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>企 画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画(企画委員会で協議) ・プログラム開発(企画委員会) <p>展 開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報(図書館、小学校、保育所、児童館) ・募集(図書館、児童館) ・講師依頼、講師謝金(図書館) ・当日の運営(図書館、児童館、母親クラブ) <p>評 価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反省会(企画委員会) </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> <p>*企画委員会 学識経験者、児童館職員、児童厚生員 母親クラブ委員、図書館職員で構成</p> </td> </tr> </table>				<p>企 画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画(企画委員会で協議) ・プログラム開発(企画委員会) <p>展 開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報(図書館、小学校、保育所、児童館) ・募集(図書館、児童館) ・講師依頼、講師謝金(図書館) ・当日の運営(図書館、児童館、母親クラブ) <p>評 価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反省会(企画委員会) 	<p>*企画委員会 学識経験者、児童館職員、児童厚生員 母親クラブ委員、図書館職員で構成</p>																																																										
<p>企 画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画(企画委員会で協議) ・プログラム開発(企画委員会) <p>展 開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報(図書館、小学校、保育所、児童館) ・募集(図書館、児童館) ・講師依頼、講師謝金(図書館) ・当日の運営(図書館、児童館、母親クラブ) <p>評 価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反省会(企画委員会) 	<p>*企画委員会 学識経験者、児童館職員、児童厚生員 母親クラブ委員、図書館職員で構成</p>																																																														
<p>連携の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村内全体にわたる多くの参加者を集めることができた。 ・企画委員会を開催したことによって、企画から実施、評価まで職員の共通理解を図って事業を進めることができた。 ・多様な情報提供が可能となった。 ・職員体制の弱さと予算不足を補い合うことができた。 																																																															

事例4 「情報」(県内S町T公民館)

連携施設	中央公民館、各学校
連携のねらい	公共図書館を中核とした図書館ネットワークを構築し、学習情報提供の充実を図る
<p>事業の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 事業名 S町図書ネット 2 ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・完全学校週5日制の実施にむけ、各学校の図書館の学習情報センター機能の整備（インターネットによる情報提供）を進めることによって、学校の教育資源を広く地域住民に開放し、生涯学習の推進を図る。 ・公共図書館を中核とした図書館ネットワークを構築し、図書資源の共有化を図ることで「総合的な学習の時間」における自主的・自発的な学習を推進する。 3 内容 <ol style="list-style-type: none"> (1)準備段階 <ul style="list-style-type: none"> 教育委員会、各学校、S町ほん太ネットとの企画・調整会議 図書ボランティアの募集、養成、組織化 公共図書館、各学校の図書の整理、データ入力 (2)事業の運営 <ul style="list-style-type: none"> インターネットによる図書貸借申込み <ul style="list-style-type: none"> ・学校間は校務員の外勤を利用 ・一般利用者の貸借は、受け取り拠点を（4箇所）を利用 学校図書館の運営 <ul style="list-style-type: none"> ・毎週、土曜日は、図書ボランティア（S町ほん太ネット）が学校図書館を運営 ・平日週2日は、図書ボランティアが読書指導員を務めながら、学校図書館の運営補助 事業に関わる維持管理（教育委員会） ・パソコン機器、インターネット環境の管理 ・土曜日の図書ボランティア、平日の読書指導員の配置調整 ・図書ボランティアの養成、研修事業の実施 	
<p>連携の概要</p> <pre> 企 画 ・企画（T公民館、教育委員会） 展 開 ・ボランティア募集の広報（首長部局、教育委員会） ・募集（T公民館） ・ボランティア養成事業運営（T公民館） ・図書資料入力の資料収集（T公民館、各学校） ・図書資料入力（T公民館、ボランティア団体） ・図書館ネットワーク事業の運営（T公民館、各学校） 評 価 ・評価（T公民館、教育委員会） </pre>	
<p>連携の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館機能をもつ公民館と各学校の情報を共有することで、多様な学習情報の提供が図られた。 ・図書資料や図書情報の不足が施設間連携によって町全体の資料、情報として整備された。 ・施設間連携によって、図書情報の整備が多額の財源と多くの時間を費やすことなくできた。 	

事例5 「国際理解」(県外 A 市 M 公民館)

連携施設	Y 公民館、O 公民館																																																										
連携のねらい	公民館職員が現代的課題や地域課題についての学習提供のあり方を研究し、事業を地区の公民館の連携によって実施することによって効果的な学習提供を図る。																																																										
<p>事業の概要</p> <p>1 事業名 国際交流セミナー</p> <p>2 ねらい 市内に定住する外国人が増えつつある昨今、外国の文化と習慣を理解し、友好を深め、共に手を取り合った国際理解の深い人づくり、まちづくりをめざす。</p> <p>3 対象 成人</p> <p>4 内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>主 題 名</th> <th>方 法</th> <th>講師・指導者</th> <th>場 所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月</td> <td>外国人から見た日本</td> <td>講義・討論</td> <td>市国際交流協会役員</td> <td>M 公民館</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>日本人から見た外国</td> <td>講義・討論</td> <td>海外協力隊員</td> <td>M 公民館</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>民族音楽の旅</td> <td>講義・討論</td> <td>高等学校教員</td> <td>M 公民館</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>音楽で国際交流</td> <td>鑑賞</td> <td>音楽家</td> <td>M 公民館</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>食卓で国際交流</td> <td>実習</td> <td>料理研究家他</td> <td>各公民館</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>民族・習慣の理解</td> <td>講義・討論</td> <td>作家</td> <td>M 公民館</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>絵画から世界を知る</td> <td>鑑賞</td> <td>美術館職員</td> <td>A 美術館</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>映画から世界を知る</td> <td>鑑賞</td> <td>公民館職員</td> <td>M 小学校</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>地球人として生まれて</td> <td>講義・討論</td> <td>大学教授</td> <td>O 公民館</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>日本の伝統文化で国際交流</td> <td>実技</td> <td>老人クラブ、婦人会</td> <td>M 公民館</td> </tr> </tbody> </table>					月	主 題 名	方 法	講師・指導者	場 所	6月	外国人から見た日本	講義・討論	市国際交流協会役員	M 公民館	7月	日本人から見た外国	講義・討論	海外協力隊員	M 公民館	7月	民族音楽の旅	講義・討論	高等学校教員	M 公民館	8月	音楽で国際交流	鑑賞	音楽家	M 公民館	9月	食卓で国際交流	実習	料理研究家他	各公民館	10月	民族・習慣の理解	講義・討論	作家	M 公民館	10月	絵画から世界を知る	鑑賞	美術館職員	A 美術館	11月	映画から世界を知る	鑑賞	公民館職員	M 小学校	12月	地球人として生まれて	講義・討論	大学教授	O 公民館	12月	日本の伝統文化で国際交流	実技	老人クラブ、婦人会	M 公民館
月	主 題 名	方 法	講師・指導者	場 所																																																							
6月	外国人から見た日本	講義・討論	市国際交流協会役員	M 公民館																																																							
7月	日本人から見た外国	講義・討論	海外協力隊員	M 公民館																																																							
7月	民族音楽の旅	講義・討論	高等学校教員	M 公民館																																																							
8月	音楽で国際交流	鑑賞	音楽家	M 公民館																																																							
9月	食卓で国際交流	実習	料理研究家他	各公民館																																																							
10月	民族・習慣の理解	講義・討論	作家	M 公民館																																																							
10月	絵画から世界を知る	鑑賞	美術館職員	A 美術館																																																							
11月	映画から世界を知る	鑑賞	公民館職員	M 小学校																																																							
12月	地球人として生まれて	講義・討論	大学教授	O 公民館																																																							
12月	日本の伝統文化で国際交流	実技	老人クラブ、婦人会	M 公民館																																																							
<p>連携の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究部会の設置 <p>企 画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習テーマの研修会（研究部会） ・企画に関わる情報交流（研究部会） ・企画・立案（研究部会） ・プログラム開発（研究部会） ・予算措置（部会事業費） <p>展 開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ作成（M 公民館） ・広報（各公民館） ・講師依頼（研究部会） ・資料作成（各公民館で分担） ・当日の運営（各公民館で分担） <p>評 価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反省会（研究部会） 		<p>* 公民館職員研究部会 公民館職員で構成 社会教育指導員の助言を受ける</p>																																																									
<p>連携の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設間連携を推進するための組織が、実情把握、情報交流、相談の場となって各公民館の横のつながりが強まった。それによって、事業推進が大変円滑に行われた。 ・学習内容（プログラム）を多くの情報やアイデアを出し合って作り上げることができ、参加者に好評であった。また、職員のレベルアップにもなった。 ・情報の交流が進み、講師の選定が充実できた。 ・一つの公民館ではできない事業が可能となった。 																																																											

事例6 「環境」(県内K村生涯学習ステーション)

連携施設	農業活性化センター、各小学校					
連携のねらい	連携によって計画的・体系的に事業を実施することにより、村の施策と教育の施策の融合を日常的に促進する					
<p>事業の概要</p> <p>1 事業名 川の小楽校</p> <p>2 ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域素材及び地域の人材を活用した体験活動を教材化及び体系化することにより、地域に根ざした「生きる力」を育む。 ・「川との共生」を目指す村民としての生涯学習の基礎を養うとともに、未来の村を担う人材の育成を図る。 ・親水活動を計画的・体系的に進めることをとおして、「川との共生の日常化」を促進する。 ・村の課題である「川との共生」を主なテーマとしながら、総合的な学習実施に向けて内容の充実を目指す。 <p>3 対象 小学校児童 1年生～6年生</p> <p>4 内容例</p>						
	学	テーマ	実施	内 容	場 所	講 師
	1	川と遊ぼう	7月	川の生き物探し等	河川公園	北上川サト協 <small>サト</small> 協会
	2	生き物探そう	6月	飼ってみたい生き物探し等	河川公園	小学校長
		カニさん大きくなってね	10月	カニの養殖場の見学等	養殖場等	北上川保全協会
	3	春の水辺探検	4月	植物や虫にふれあう等	河川公園等	文化財調査委員
		秋の水辺探検	9月	植物や虫にふれあう等	河川公園等	文化財調査委員
	4	水辺の学校	9月	川の汚れと浄化	教室	保健所職員
			9月	河川改修工事現場の見学	水辺プラザ等	村職員
			10月	水質調査、上流や中流	河川公園等	保健所職員
	5	カハ ックサーモン トクアハ	2月	サケの稚魚放流	加妻川	村・漁協職員
			8月	環境学習と水質調査事前学習	教室	村職員
			8月	環境学習と水質調査	加妻川北上川	村職員
			11月	環境学習と水質調査	加妻川北上川	村職員
	6	僕らは川(環境少年団)	6月	石の観察、	千厩川	文化財調査員
			6月	調査船乗船	北上川	建設省
			10月	清掃活動と環境学習	河口	流域連携交流会
			11月	川と村の歴史	教室	文化財調査員
	全校	クリーン大作戦	10月	河川堤防の清掃	千厩川	学校職員
		親水作品等の展示	7月	作品及び活動写真の展示	学校等	学校職員
<p>連携の概要</p> <p>企 画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画(生涯学習ステーション、各小学校、企画開発課、建設課) ・予算措置(各課) ・プログラム開発(各小学校、生涯学習ステーション) <p>展 開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備(各小学校、生涯学習ステーション、各課) ・講師依頼(生涯学習ステーション) ・当日の運営(生涯学習ステーション、各小学校) <p>評 価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書作成(生涯学習ステーション、各小学校) 						
<p>連携の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期的な視点に立ち、村としての人材育成の契機となった。 ・地域に根ざした教育課程の編成が体系づけられた。 ・連携しプログラムを開発したことによって、充実した学習内容が展開でき、高い評価を得ることができ、継続が期待されている。 ・連携が密になり、他の事業への対応がスムーズに行えるようになった。 ・学校が、村の施策の一端を担うような事業を展開できた。 						

事例7 「環境・高齢化社会」(県内T町中央公民館)

連携施設	道の駅交流館、老人憩いの家、病院、各小・中学校、高等学校、駅、福祉センター、JA、金融機関支店等																															
連携のねらい	民間も含めた生涯学習関連施設が相互に連携を図ることにより、地域の身近な学習基盤を総合的に整備充実し、地域住民の生涯学習に資する																															
<p>事業の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 事業名 町民大学 2 ねらい 人間としてのよりよい生き方、より豊かな人生、より住みやすい町の実現を目指し、町民の「だれもが、いつでも、どこでも」学習できるよう、町民憲章のもとに体系化された学習機会を提供する。 3 対象 18歳以上の町民または町内に勤務する方 4 内容 <table border="1" data-bbox="357 779 1275 1167"> <thead> <tr> <th>講座名</th> <th>単位数</th> <th>実施</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>チョウセンアカシジミ幼虫保護観察会、 成虫保護観察会</td> <td>各1単位</td> <td>5月 7月</td> </tr> <tr> <td>山野草・盆栽・皐月展</td> <td>各1単位</td> <td>6月</td> </tr> <tr> <td>愛ランドいわて市町村民運動研修会</td> <td>各2単位</td> <td>6月</td> </tr> <tr> <td>自治会視察研修</td> <td>2単位</td> <td>年間</td> </tr> <tr> <td>自治会連合会視察研修</td> <td>各2単位</td> <td>11月</td> </tr> <tr> <td>風・海輝く女性フォーラム</td> <td>2単位</td> <td>9月</td> </tr> <tr> <td>介護教室</td> <td>各1単位</td> <td>5・9・2月</td> </tr> <tr> <td>介護入門・初級講座、家庭・地域介護講座</td> <td>1~2単位</td> <td>年間</td> </tr> <tr> <td>ひとり暮らし老人交流会</td> <td>各2単位</td> <td>6~3月</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">講座開設計画から環境、高齢者に関わるものを抜粋</p>			講座名	単位数	実施	チョウセンアカシジミ幼虫保護観察会、 成虫保護観察会	各1単位	5月 7月	山野草・盆栽・皐月展	各1単位	6月	愛ランドいわて市町村民運動研修会	各2単位	6月	自治会視察研修	2単位	年間	自治会連合会視察研修	各2単位	11月	風・海輝く女性フォーラム	2単位	9月	介護教室	各1単位	5・9・2月	介護入門・初級講座、家庭・地域介護講座	1~2単位	年間	ひとり暮らし老人交流会	各2単位	6~3月
講座名	単位数	実施																														
チョウセンアカシジミ幼虫保護観察会、 成虫保護観察会	各1単位	5月 7月																														
山野草・盆栽・皐月展	各1単位	6月																														
愛ランドいわて市町村民運動研修会	各2単位	6月																														
自治会視察研修	2単位	年間																														
自治会連合会視察研修	各2単位	11月																														
風・海輝く女性フォーラム	2単位	9月																														
介護教室	各1単位	5・9・2月																														
介護入門・初級講座、家庭・地域介護講座	1~2単位	年間																														
ひとり暮らし老人交流会	各2単位	6~3月																														
<p>連携の概要</p> <p>企 画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画（全体計画：企画委員会） <p>展 開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報（総務企画課、公民館等実施施設） ・講師依頼（町民大学事務局、各実施施設） ・当日の運営（会場施設及び連携施設） ・器具・教材（会場施設） ・資料の作成・収集（会場施設及び連携施設） <p>評 価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反省会（企画委員会、各施設） 	<p>* 企画委員会</p> <p>公運審代表、自治会代表 老人クラブ代表、首長部 局各課代表、学校関係 金融関係等町内全体の機 関団体の代表</p>																															
<p>連携の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画委員会を整備したことにより、町内にあるほぼ全部の施設、機関団体（民間も含む）が互いに情報交換をしやすくなった。 ・事業情報が容易に収集しやすくなり、町民への情報提供が効果的に行えるようになった。 ・連携に参加している施設、機関団体が町民の生涯学習に貢献しているという意識を持てるようになった。 																																

7 研究のまとめ

(1) 研究の成果

- ア 各種文献、資料等をもとに、ネットワーク化の必要性や生涯学習関連施設の概念について整理することができた。
- イ 生涯学習関連施設間のネットワーク化に関する実態調査によって、現状と課題について把握することができた。
- ウ 事業推進のための施設間連携の先進事例研究により、施設間連携の取り組みについて整理することができた。
- エ 学習機会の充実を図るための効果的な施設間連携について整理することができた。

(2) 今後の課題

- ア 本研究において示した効果的な施設間連携の推進についてその有効性を検証することが必要である。
- イ 学習機会拡充を図るため、民間との連携や市町村域を越えた連携などの様々な施設間連携の事例を収集し、整理することが必要である。

[主な参考文献]

- 1 『社会教育主事のための社会教育計画 』国立教育会館社会教育研修所（平11）
- 2 『行政機関の連携・協力体制の整備について』新潟県生涯学習推進会議（平元）
- 3 『生涯学習のネットワークづくり』彩の国生涯学習振興協議会、埼玉県教育委員会（平11）
- 4 『生涯学習辞典』日本生涯教育学会編 東京書籍（平11）
- 5 『生涯学習ハンドブック』山本恒夫編著 第一法規（平12）
- 6 月刊社会教育（平元．2）『生涯学習施設における事業ネットワーク化の課題と方向』山本恒夫著
- 7 月刊社会教育（平10、10）『ネットワーク型行政のすすめ』坂本登著
- 8 月刊社会教育（平7．5）『地域における生涯大学システムの研究開発』笹井宏益著
- 9 『生涯学習のネットワーク推進』瀬沼克彰著 学文社（平8．6）
- 10 『概説生涯学習』辻功、伊藤俊夫、吉川弘、山本恒夫編著 第一法規（平6．8）
- 11 『生涯学習ネットワーク化への挑戦』瀬沼克彰編集 ぎょうせい（平4．7）
- 12 『生涯学習施設ネットワーク化』岡本包治編著 ぎょうせい（平7．9）
- 13 『市町村における生涯学習の手引き 』岩手県教育委員会（平5．3）
- 14 『生涯教育推進会議報告書』岩手県生涯教育推進会議（昭和62）
- 15 『生涯学習推進のためのネットワーク形成について』生涯学習関連施設のネットワーク形成に関する懇談会（昭和63．7）
- 16 『社会の変化に対応した今後の社会教育行政の在り方について』生涯学習審議会答申（平10．9）
- 17 『教育改革に関する第二次答申』臨時教育審議会答申（昭61．4）
- 18 『生涯学習のまちづくり推進方策に関する実践的研究』岩手県立生涯学習推進センター（平11．3）
- 19 『学習機会提供を中心とする広域的な学習サービス網の充実について（報告）』生涯学習審議会社会教育分科審議会施設部会（平6．9）
- 20 『今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について』生涯学習審議会答申（平4．7）
- 21 『生涯学習推進のための公民館事業のあり方に関する研究』岩手県生涯学習推進センター（平10．3）

共同研究者

主担当 社会教育主事 伊藤隆

副担当 社会教育主事 藤井新一